

## 日本ユネスコ国内委員会科学小委員会政府間海洋学委員会 (IOC) 分科会関係活動に関する報告

### IOC キャパシティディベロップメント専門家グループ会合

2020年10月26日キャパシティディベロップメントに関する第2回IOC専門家グループ会合がオンラインにて開催されました。

IOCキャパシティディベロップメント専門家グループ会合は、キャパシティディベロップメントについてのニーズ評価や関連する取組についての計画策定、また、リソースの動員に関して、地球規模及び地域規模の取組を支援し、キャパシティディベロップメントの実行に向けての方法やツールに関するアドバイスを提供することを目的として開催されております。本会合では、IOC議長及びIOCキャパシティビルディング専門家グループの共同議長であるAriel Troisi氏による冒頭挨拶から始まり、IOC Ocean InoHubプロジェクトの機能の見直しや、第2回キャパシティディベロップメントニーズ調査の中間状況レビュー、また、IOCキャパシティディベロップメントにおける取組と成果の共有及びIOCキャパシティディベロップメント戦略(2015-2021)について、期間を2023年まで延長しつつ、その後のキャパシティディベロップメント戦略の方向性について議論を行うための新たなタスクチームを設立することについても話し合われました。本タスクチームへは文部科学省研究開発局海洋地球課戸谷玄深海地球探査企画官が参画しております。



Image: 40 of the 63 participants of the meeting

### 「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」WESTPACバーチャルセッション

2020年11月10日にIOC西太平洋地域小委員会(WESTPAC)主催で持続可能な開発のための国連海洋科学の10年に関するバーチャルセッション”Co-designing the Science We need for the Ocean Decade”が開催され、ユネスコ本部や加盟国から200名以上の科学者、政府関係者、若手研究者、産業界等からの参加者(46か国)がありました。IOCのリュビニンADGからの冒頭挨拶、IOCの担当官



より 10 年 Action に関する説明が行われた後、地域間における研究レベルでの協働、キャパシティビルディングに関する共有が行われました。日本からは、牧野光琢 IOC 分科会委員が人文社会科学的方法による研究コミュニティでの取組について発表されたほか、角南篤日本ユネスコ国内委員会委員より笹川平和財団の取組や、後述の持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年研究会の開催、事例集の作成についての発表がありました。

結びに、2021 年 8 月にバンコクにおいて開催される第 11 回 WESTPAC 国際海洋科学会議で、国連海洋科学の 10 年地域キックオフ会合が開かれる旨案内がありました。

本セッションについては以下 URL に結果概要が掲載されており、全体動画の視聴が可能です。

<http://iocwestpac.org/news/940.html>

### 「持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年」研究会

笹川平和財団海洋政策研究所及び日本海洋政策学会によって持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年研究会が立ち上げられ、2020 年 8 月 30 日にキックオフ会合、11 月 6 日に第 1 回会合が笹川平和財団国際会議場（オンライン同時開催）において、第 2 回会合が 12 月 21 日にオンラインで開催されました。

本研究会は、海洋科学に関連する情報の共有や、科学技術外交の視点を交えたうえでの日本が示すべきリーダーシップの提案に向けた、課題や戦略等についての検討を行うこと等を目的として設立され、日本ユネスコ国内委員会委員でもある角南篤笹川平和財団理事長が共同議長を務め、IOC 分科会からは、道田豊 IOC 分科会主査、安藤健太郎委員、神田譲太委員、須賀利雄委員、中田薫委員、西村弓委員、牧野光琢委員、升本順夫委員、日本ユネスコ国内委員会からは、山口しのぶ委員、猪口邦子参議院議員及び田口康国際統括官（日本ユネスコ国内委員会事務総長）が参加しました。

2020 年 11 月 6 日に開催された第 1 回目の研究会では、田口康国際統括官より、ユネスコ IOC との関係や、日本ユネスコ国内委員会の取組等が報告された他、関係省庁としては環境省から海洋ごみ問題に関する取組が紹介されました。

また、関連分野の取組として、牧野光琢委員より、水産資源・生物多様性の現状と共に、持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年で求められる海洋科学の方向性と日本の役割、海洋政策学の方向性について説明が行われました。

2020 年 12 月 21 日に開催された第 2 回目の研究会では、内閣府（科学技術・イノベーション担当）より、次期科学技術・イノベーション基本計画の概要と海洋に関する検討状況について、また、気象庁より、気象変動の観点から海の温暖化、海面水位上昇、海の酸性化についての報告等が行われました。

なお、第 3 回研究会については 2021 年 2 月頃の開催が予定されているほか、国連海洋科学の 10 年への日本の貢献に関する事例集について、日本語版を年度内に作成・公開し、英語版も本年中に配布することを目指すこととしています。また、この事例集日本語版の公開に合わせて国連海洋科学の 10 年についての日本のウェブサイトについても制作中です。

## 港ユネスコ協会主催持続可能な開発のための国連海洋科学の10年に関するシンポジウム

2020年12月11日に港ユネスコ協会主催の持続可能な開発のための国連海洋科学の10年に関するシンポジウム「魅力ある海を次世代につなぐために～国連海洋科学の10年が始まる～」が東京都港区の国際文化会館において開催（オンライン同時開催）されました。

本シンポジウムは、2021年から始まる持続可能な開発のための国連海洋科学の10年に向け、海に関する取組について、何ができるのか、を共に考えることを目的として開催されたもので、日本ユネスコ国内委員会からは、田口康国際統括官が冒頭挨拶を行い、基調講演の講師として道田豊 IOC 分科会主査より国連海洋科学の10年について紹介されたほか、海洋リテラシー向上の意義や海洋教育の実践、また、海洋科学の進め方に関する日欧比較について報告が行われました。



## IOC 設立 60 周年 記念 オンライン イベント

2020年はIOC設立60周年の記念の年にあたり、当初予定では対面での記念イベントが計画中であったところですが、感染症の拡大を受けてオンラインイベントが企画され、2020年12月14日に行われました。冒頭にアズレー・ユネスコ事務総長の祝辞、引き続き歴代役員からメッセージが述べられました。このイベントに合わせて、作成されたばかりの世界海洋科学レポート（Global Ocean Science Report 2020: GOSR 2020）の概要を紹介するビデオが流されました。GOSR 2020には、わが国から、JAMSTEC 白山義久氏が編集委員及び執筆者、道田豊 IOC 分科会主査が第7章「海の持続的利用のための海洋データ」の筆頭著者として貢献しているほか、海上保安庁 馬場典夫氏が外部査読者として名を連ねています。





## 国際海洋データ情報交換 ( I O D E ) 運営会議

2021年1月12日-14日の3日間、国際海洋データ情報交換(IODE)運営会議がオンラインで開催されました。道田豊 IOC 分科会主査が、前 IODE 議長の立場で出席し、活動の進捗状況のレビュー、傘下のプロジェクトの評価、新規プロジェクトの審査、UN Decade への貢献方策、延期となっている第 26 回 IODE 会議 ( I O D E - 2 6 ) の準備などが議論されました。 I O D E - 2 6 は、当初案では 2021 年 2 月にポーランドのソポトで開催されることになっていましたが、感染症の拡大を受けて延期となり、最終的には、2021 年 4 月にオンライン開催されることになりました。 I O D E では、会議に合わせて 1-2 日の科学カンファレンスを開催することが通例となっていますが(前回、2019 年 2 月に東京で開催された I O D E - 2 5 では 2 日間)、 I O D E - 2 6 では、2021 年 11 月にポーランドのソポトにおいて「海洋データ会議」として別開催とする方向で調整することになりました。この会議のための準備委員会が設置されることになり、道田豊 IOC 分科会主査が計画委員会 ( Conference Planning Committee ) の初期メンバーの一人として登録されました。なお、2021 年は I O D E 開始から 60 年の記念の年にあたっていることから、11 月の会議の際に記念のイベントの開催が予想されます。

